

阿弥陀堂

阿弥陀堂は、大山寺に現存する寺院の中では最古の建築物です。1529 年の地滑りで倒壊しましたが、1552 年に現在の場所に再建されました。このお堂はもとは、修行者が 90 日間阿弥陀仏を崇めながらその周りを歩く常行三昧の名で知られる、仏教の修行のために使用されていました。この修行は 19 世紀末の廃仏毀釈により終焉を迎え、その後、お堂は阿弥陀仏を祀る場所になりました。この堂にある 266 cm の高さの木造の阿弥陀仏の像は、12 世紀の仏師、良圓によりつくられました。また両脇には観音菩薩と勢至菩薩の像が安置されています。建物、仏像とも国の重要文化財に指定されています。